PROFILE

人物白書

vol. 02

氏名 石井（いしい） 佑樹（ゆうき）

所属部署 札幌営業所

担当エリア 札幌近郊、道東方面

お客さまに言われて嬉しかった一言

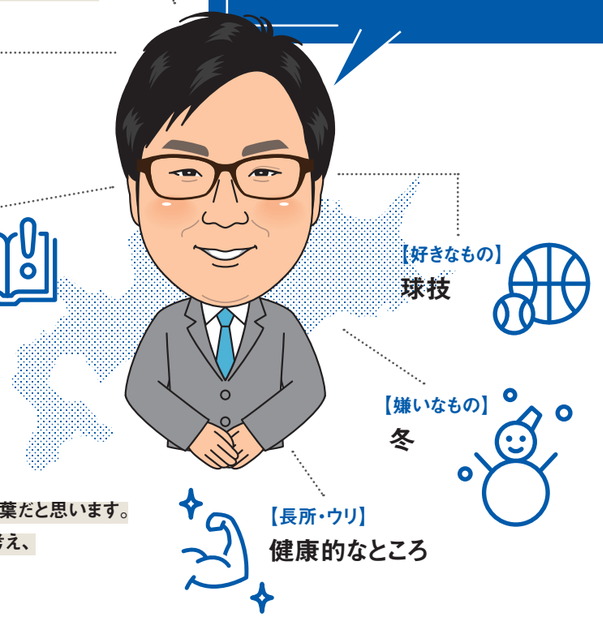
“ありがとう”

「ありがとう」という言葉は感謝の気持ちを伝える大切な言葉だと思います。
お客さまからの「ありがとう」は、お客さまの立場に立って考え、
行動することができた結果、お客さまに感謝いただけたと
実感できる言葉でした。

【座右の銘】
誠心誠意
相手の立場に立って考え
行動するよう心掛けています

【出身地】
神奈川県
厚木市

【趣味】
読書



【好きなもの】
球技

【嫌いなもの】
冬

【長所・ウリ】
健康的なところ

Message

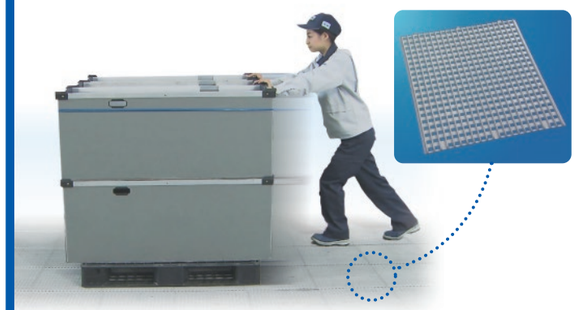
お客さまへのメッセージ

お客さまの物流課題解決の
お手伝いができるよう
がんばってまいります。
今後ともよろしくお願いします。

FOCUS 商品・サービスインフォメーション

02 μ（ミュー）デッキパネル

必要な力は
およそ 1/9



並べて貼り付け簡単設置

フォークにも耐える頑丈設計

プラスチック容器との相性は抜群

棚に貼れば出し入れ楽々

column モノを「運ぶ」から「滑らせる」へ

持って運ぶには重いけど、台車やフォークリフトを使うには取り回しが悪い…。「μ（ミュー）デッキパネル」は、そんな工場・倉庫内のちょっとした移動を効率化できます。その特殊な材質と構造で目指したのは、「荷物は滑り、人は滑らない床」。押したり引いたり、回転させたり、およそ1/9の力でスムーズに。安全性と作業性を両立させました。作業台やローラーコンベアの代わりに、「μデッキスリム」もオススメです。引き摺るのではなく、滑らせる感覚。体験してみると、なかなか新鮮ですよ。デモもできますので、お気軽にお問合せくださいね。

JPR 日本パレットレンタル株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル　URL www.jpr.co.jp　e-mail service@jpr.co.jp

最新情報など詳しくはwebから!
日本パレットレンタル

発行/2018年10月10日　編集/日本パレットレンタル株式会社　制作・印刷/DNP 大日本印刷株式会社

お客さまとJPRをつなぐ情報誌

VOL.02
2018.Oct

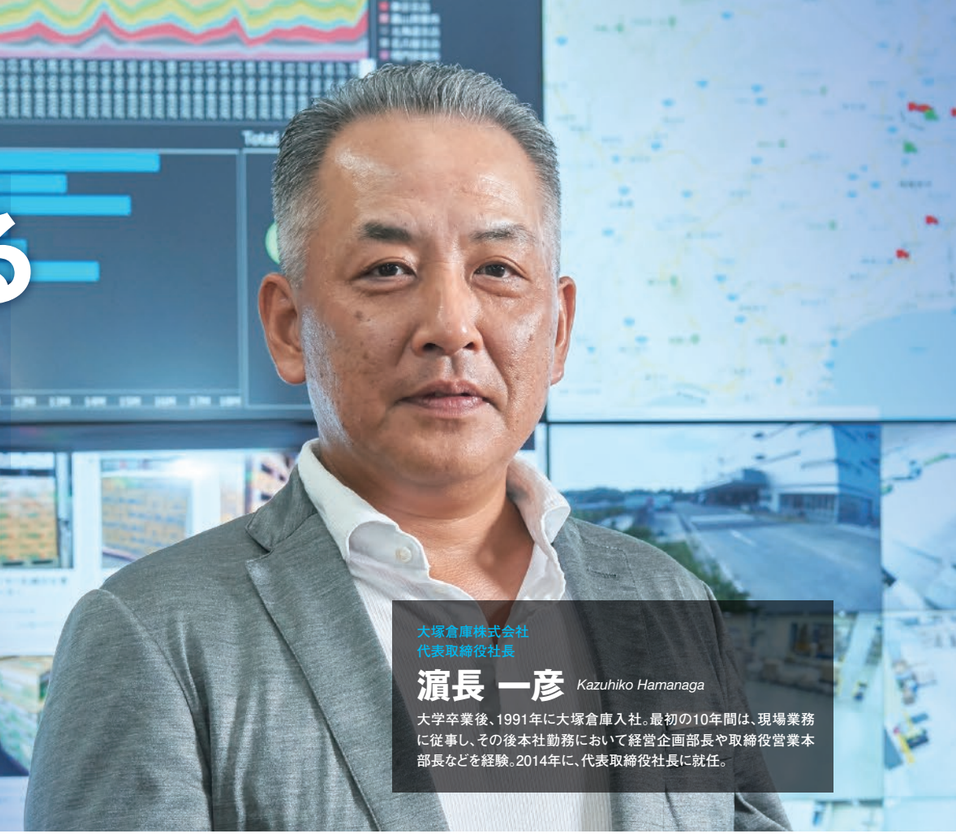
月刊 JPR

物流プラットフォームの創造。

JPR SPOT LIGHT　Otsuka Warehouse Co.,ltd.

パレット伝票の電子化からはじまる物流の未来

紙伝票の管理や処理にかかる時間がムダだからどうにかして欲しい――
大塚倉庫からのこの一言をきっかけに、サービスリリースに至った「パレット伝票電子化サービス」。
同サービスのファーストユーザーであり、始点になった
同社の代表取締役社長　濵長 一彦氏に、JPRとの関わり、
同サービス導入後の変化、今後の展望について伺った。



大塚倉庫株式会社
代表取締役社長
濵長 一彦 *Kazuhiko Hamanaga*
大学卒業後、1991年に大塚倉庫入社。最初の10年間は、現場業務に従事し、その後本社勤務において経営企画部長や取締役営業本部長などを経験。2014年に、代表取締役社長に就任。

パレットの見直しが多用な取引のキッカケに

大塚倉庫は、1961年創業の倉庫・運輸関連業を担う企業だ。全国に物流拠点を持ち、医薬品・食品飲料・日用品の分野では国内最大級の物流量を誇っている。同社が属する大塚グループは、医薬品の製造・販売と、日々の健康の維持・増進のためのニュートラシューティカル関連事業をメイン事業とする。そのため、もともとは、医薬品を安定供給することを目的に大塚倉庫はつくられた。ところが、現在同社の売上高約500億円のうち実に6割はグループ外からの案件による。「大塚グループの商品を運んでいるだけでは、グループ内のコストセンターでしかない。培った物流ノウハウを提供し、社外からもきちんと評価される企業になりたいと考えました」と外販（グループ外からの案件）比率を伸ばした理由について、濵長社長は語る。

外販獲得に向けて積極的な営業活動を行うにあたり思わぬところで奏功したのが、パレットの見直しだ。「1999年頃からでしょうか、自社パレットからJPRのレンタルパレットへ切り替えを進めました。清涼飲料含む加工食品業界でスタンダードとなりつつあった標準サイズのJPRパレットを導入したことで、『同じJPRパレットで、同じところに納品するなら…』と営業の足掛かりになったのです」と濵長社長。

2018年7月末現在、P研（JPR11型レンタルパレット共同利用・回収推進会）は加入しているメーカー企業324社、2017年度の年間運用パレット枚数は約3300万枚と、まさに加工食品業界のインフラと呼べる規模に成長している。

属人化を防ぐこと 現場の手間を削減すること

しかし、外販が増えていく中で課題も出てきた。取引先拡大に伴って、扱う紙伝票の種類も飛躍的に増えていったのだ。加えて、取引先が増えれば増えるほど、JPRのパレットを扱う枚数も増え、管理するパレット伝票も増加していった。

濵長社長はこう課題を振り返る。「物流の世界から一歩外に出ると、クレジットカード1枚で何でも買い物ができる時代です。紙幣もいらなくなっているのに、物流業界は50歳の私が入社した当時から何も変わらず、ずっと紙ベースの処理を続けている。これでいいのだろうか、と思いました」

しかも、紙の伝票処理は、組織運営上の問題も生んでいた。「属人化を招くという課題もありました。煩雑すぎて、『担当者にしかわからない』という状況が起きていたのです。JPRの加納社長に、伝票処理について『ペーパーレスにしたい』と相談し、解決の方法を考えていただきました」と、濵長社長は続けた。

紙の伝票をなくせば、ドライバーの負荷を抑えることができる。物流の最終ランナーは、ドライバーだ。ドライバーが荷物の受け渡しの度に、サインをし、伝票を束ねていくのはかなりの手間。だからこそ、濵長社長はドライバーの負荷を削減できる仕組みをJPRとともに考えていくことを決意したのだ。

JPRによるパレット伝票電子化サービスで、モノ（パレット）の受け渡しをリアルタイムに現場で把握できるようになった。現場の作業負荷削減だけでなく、内勤者（管理システム「epal」への入力や伝票の管理保管、未照合になってしまったデータの確認等）の作業負荷の軽減も大きな成果だ。「現在は、モノが動いた時にスマートフォンでリアルタイムにデータ照合が可能になりましたから、細々した手間がなくなり、協力会社からの評判がすごく高いです」と、濵長社長はパレット伝票電子化サービス導入の手応えを感じている。

これまでも大塚倉庫では、IT技術を積極的に取り入れることにより業務改革を進めてきた。同社の目指す、人や物がつながる「コネクティッド物流」の実現に、伝票電子化サービスは欠かせない1ピースになりつつある。

「JPRさんは標準化・共有化をキーワードに事業を展開され、良い意味でどこにも染まらずパブリックな立ち位置でいる珍しい存在だと思っています。そんなJPRさんだからこそ、紙依存になっている業界を変え、モノの動きとデータがリアルタイムで一致し余計な業務負荷がない仕組みを作ってくれると期待しています」と濵長社長は語ってくれた。

伝票電子化サービスについて

伝票電子化サービスとは、従来、紙で運用されていた複写式のパレット伝票を電子化し、パレットの移動情報をQRコードからスマートフォンで照会する仕組みのこと。紙管理等の保管業務や作業ミス、照合にかかる手間軽減を図ることが出来ます。2018年4月にサービスリリース。

Next　次号は、ミールカート（機内食提供用機内カート）の管理に、企業資産管理ソリューションシステム「Logiarx（ロジアークス）」をご採用いただいたお客様のインタビューをお送りする予定です。